



もくじ	
▽英文誌編集委員会より	1
▽国際会議案内	3
▽大会案内	4
▽研究部会レポート	5
▽今後の学会関連行事	6
▽from Editors	6

【英文誌編集委員会より】
本学会英文誌(JPA)の web of science
収録までを振り返って

JPA 編集委員長 安河内朗
 (九州大学大学院)

2010年4月9日、待望のその日がやってきました。東京に支部を置くトムソン・ロイター社から、本学会英文誌, Journal of PHYSIOLOGICAL ANTHROPOLOGY の web of science への収録が確認された、とのメールが入ったのです。

本学会の前身である生理人類学懇話会が設立されたのが1978年、その後1982年に生理人類学研究会へと発展的に改称されますが、その直前、1982年10月に「生理人類学懇話会会誌 第1号」が創刊されます。これは論文というより会報的な体裁でした。翌1983年の第1号では「生理人類学研究会会誌」として、ここではじめて論文冊子としての体裁を整えることになりました。論文雑誌としてはこの会誌が創刊号になりますが、懇話会会誌の存在を重視して研究会会誌はVol.2 No.1からスタートすることになったわけです。研究会会誌の英訳は「Annals of Physiological Anthropology」として英文、和文が混在するまま年4回の発刊で進行しました。1995年に会誌は完全英文化となり、「APPLIED HUMAN SCIENCE Journal of Physiological

Anthropology」の名称で隔月発刊の再スタートをきりました。これに対応して翌年、和文誌が年4回発刊で創刊されました。その後、英文誌の名称が揺れ、2000年のJournal of PHYSIOLOGICAL ANTHROPOLOGY and Applied Human Scienceを経て、2006年にやっとJournal of PHYSIOLOGICAL ANTHROPOLOGY に落ち着くこととなります。学会会員の専門分野が多岐化したための揺れであったわけでしたが、これをもって今後ともこの名称が続くこととなります。さて、もともとの雑誌は生理人類学のオリジナリティを活かした国際誌をめざすものであり、したがってできるだけ多くのデータベースに収録され広く引用されることが狙いでした。

そのため、研究会会誌がスタートした1983年の12月には、すでにInstitute of Scientific Information (ISI社)へCurrent Contents (Life Science)への収録条件を問い合わせる作業が始まっていました。これが後にweb of scienceへと発展するデータベースであります。翌年1月には当社から雑誌の見本を送るよう連絡があり申請しますが、採用されませんでした。その2年後の再申請時もうまくいきませんでした。しかしながらこの間、1984年(Vol.3)の第4号には“Excerpta Medica”に収録され、翌1985年(Vol.4)の第3号には“Index Medicus”, “Ergonomics Abstract”, “JICST”への収録が相次ぎました。その後現在に至るまでに、“BIOSIS”, “MEDLINE”,

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

“ PubMed ” , “ Scopus ” , “ J-STAGE ” , “ JDream-II ” が追加され、また “ Google-Scholar ” など引用増大につながる検索媒体も加わりました。さらに J-STAGE では 1995 年に遡って、Journal@rchive ではそれ以前の Annals 時代の Vol.2 まで遡って JPA の全論文が full text の電子データとして掲載されるようになりました。そのアクセス数は 2002 年に約 3000 件だったものが、2005 年には約 35,000 件、2008 年には約 80,000 件と急増しており、しかもその大半が海外からのものでした。しかしそれでもなお web of science への収録は果たされなかったのです。

2000 年に入って、当時の勝浦 JPA 編集委員長とともに東京のトムソン ISI 社（後のトムソン・ロイター社）に 2007 年 8 月まで訪問を繰り返しました。採択のために特に注意すべきことは、刊行期日が厳守されていること、表紙の情報が明確で雑誌のコンテンツがわかりやすく充実していることがまず最低条件でした。また当然ながら、投稿数やアクセス数が多く、Editors や投稿者の国際性を備え、また論文は助成金を得た grant-articles が多いほどよいのです。これらは年々改善されていきましたが、難点がひとつありました。それは、採択雑誌はその分野のコアでなければならず、それはその分野で集中的に引用されることで評価されることでした。そういう意味では、残念ながら JPA は人類学を越えた多くの分野で引用され、コアとしての存在をアピールしにくかったのです。これは、web of science の submission form の中では “Unique features distinguishing this journal” で記述することになります。

そこで、この弱点を強みに表現することにしました。つまり、JPA は現代の生活環境に対する生理的適応性評価に焦点をあてたところにオリジナリティがあること、したがって適応性評価を医学、スポーツ科学、福祉工学、建築、土木、機械、情報、栄養などなどそれぞれの分野の適応の視点から生理的にアプローチした論文の投稿があることを述べました。このような論文は他雑誌にないことから、結果的に幅広い分野の他雑誌から引用されることとなります。また、本誌掲載論文における生理的適応性評価に関する引用は他雑誌より本誌に集中するため、本誌自身の掲載論文を引用す

る率も増えることとなります。このことは数値からも検証できました。2001 年から 2007 年の JPA 掲載論文を調査すると、他雑誌への引用は全引用の 75% になりますが、特定の雑誌に引用が集中することはなく、残り 25% が自雑誌引用となっていました。しかも自己引用率はかなり低かったのです。このような傾向は、本誌と類似すると思われる他雑誌（Am J Physical Anthropol., Am J Human Biol., Ann Human Biol., Euro J Appl Physiol., J Sports Sci.）にみられませんでしたが、JPA は人間の環境への生理的適応に関する広い分野のコア雑誌といえるのです。

2007 年 8 月のトムソン・ロイター社訪問の後、そろそろ決着をつける意気込みで JPA 編集委員会で議論を重ねました。2008 年 7 月になって申請、そしてついに 2009 年 7 月になって 2010 年より収録が見込まれる旨、内々の知らせが入りました。それからさらに待って、2010 年 4 月 9 日の収録確認に至ったわけです。ほんとうに待ちわびた待望の日でした。歴代編集委員長、関邦博先生、栃原裕先生、勝浦哲夫先生をはじめ多くの編集業務、論文執筆などに関わってこられた皆様に心から感謝を申し上げます。

さて、これからは喜んでばかりはおられません。やっと国際誌として肩を並べることができたに過ぎないからです。今後はできるだけ早く Impact Factor が 1 を越え、さらに数値増大を目指すべく質の向上に努める必要があります。そのためには、生理人類学的色彩の濃い充実した論文を国内外から広く掲載していく必要があります。さらにそのためには、環境適応を中心とした生理人類学のキーワードを広く国内外で議論し、広く共有できる概念を築き、それに基づいた具体的なデータで論文を重ねては次のステップに進んでいくことが重要です。その基盤づくりとして、国内の年次大会や国際会議（ICPA）、あるいはジョイントシンポジウムやセミナー、ワークショップ等で積極的に生理人類学のテーマにチャレンジしていくことが求められるでしょう。そのなかで科研費など助成による共同研究も必然的に生まれ、JPA への有意義な投稿も促進されると思います。皆様の積極的な企画・実施あるいは参加、ご協力を心からお願い申し上げます。

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください



4月10日開催の“web of science 収録祝賀会”の集合写真

【国際会議案内】

第10回国際生理人類学会議のご案内 —第3報—

国際担当：原田 一（東北工業大学）
恒次祐子（森林総合研究所）

第10回国際生理人類学会議は、Bittles先生（Centre for Human Genetics, Edith Cowan University, Perth）のお世話により開催されます。どうぞ奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

ICPA2010 HP :

<http://www.geneticsandpopulationhealth.com/>

会議長：Prof Alan Bittles

会期：2010年9月9（木）～12日（日）

場所：Esplanade Hotel Fremantle,
フリーマントル, オーストラリア

メインテーマ：Peoples and Places

サブテーマ：

- 1) Physiological variation and adaptation
- 2) Genetic variation and adaptation
- 3) Chronobiological variation including secular trend
- 4) Bio-cultural adaptation including technological adaptability

スケジュール：

9月9日（木）：登録および歓迎会

9月10日（金）：セッション, 若手の会,

ポスター発表

9月11日（土）：セッション, IAPA General Assembly, バンケット

9月12日（日）：セッション

登録：

早期参加登録期間

2010年4月12日（月）～7月31日（土）

登録費

4月12日（月）～7月31日（土）

参加者 55,000円

同伴者 26,000円

学生 26,000円

8月1日（日）以降

参加者 A\$750

同伴者 A\$350

学生 A\$350

1日参加の場合

参加者 A\$275 (23,000円)

同伴者 A\$125 (10,500円)

学生 A\$125 (10,500円)

※1 A\$：オーストラリアドル

※2 学生参加の場合、指導教員の証明書を送付する必要があります。

7月31日（土）までの登録費支払いは、円建てにて以下までお振込ください。担当がまとめて送金します。なお振込手数料はご負担ください。別途メールにて大会参加者の所属・氏名・参加方法（一般参加／同伴者／学生）を下記までご連絡ください。登録費の支払いとメールでの連絡が揃った時点で参加登録がなされたものとします。

恒次祐子：yukot@ffpri.affrc.go.jp

8月1日以降（日）以降は会議HPをご参考に各自直接送金してください。

7月31日（土）までであってもドル建てでのお支払いを希望される方は、各自直接送金してください。

【郵便振替の場合】

口座名 第10回国際生理人類学会議

記号 10660 番号 32118351

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

【銀行振込の場合】

ゆうちょ銀行
店名 ○六八 (ゼロロクハチ)
店番 068 普通口座 口座番号 3211835

発表申し込み：

アブストラクトフォーマット
フォント：Times Roman 12 ポイント
マージン：左右とも 3.14cm
シングルスペース，左寄せ
最大 250 ワード
※詳細については会議 HP をご参照ください。
タイトル，発表者名，所属，E-mail アドレス，
口頭発表かポスター発表のいずれかを明記の上，
下記へお送りください。
Prof. Alan Bittles：
abittles@ccq.murdoch.edu.au

アブストラクト送付締切：6月1日（火）
発表受理通知：6月15日（火）

ホテルの予約：

会議 HP にてホテル情報が掲載されていますので、各自で手配願います。

アクセス：

成田から直行便で約 10 時間。日本とパース間はカンタス航空が直行便を週に 3 便運航。シンガポール航空（シンガポール経由）がシンガポール経由パース行き便を毎日運行しています。その他、マレーシア航空（クアラルンプール経由）、タイ航空（バンコック経由）、キャセイパシフィック航空（香港経由）なども利用できます。

カンタス航空の場合（3 月現在発表されているフライトスケジュールですので、ご参考まで）

東京→パース（月・水・土曜日運航）
成田 20：40 発，パース 6：05 着（翌日）
パース→東京（火・金・日曜日運航）
パース 22：55 発，成田 9：55 着（翌日）

フリーマントルはパース市の南西約 20km に位置する港町で、第二次世界大戦時には、連合軍の潜水艦基地として使用されていました。歴史

のある建物が並ぶ町並みが有名で、週末には 1897 年から続く「フリーマントル・マーケット」が開催され、多くの観光客が訪れています。特に 9 月は初春なので、比較的過ごしやすい気候です。

フリーマントルの情報はこちらから：
<http://www.fremantle.wa.gov.au/>

お問い合わせ：

会議全般に関するお問い合わせは：
東北工業大学 原田 一
Tel: 022-304-5575
E-mail: h-harada@tohtech.ac.jp

若手の会については：

九州大学 若林 斉
E-mail: waka@design.kyushu-u.ac.jp

若手の会に関する電話でのお問い合わせは：

森林総合研究所 恒次祐子
Tel: 029-829-8310 まで。

【大会案内】

第 63 回大会（2010 年千葉）の お知らせ ー第 1 報ー

大会長 岩永光一
（千葉大学大学院）

第 63 回大会は、下記の会期と会場で開催いたします。

9 月 9-12 日にはオーストラリアのパースで第 10 回国際生理人類学会議が開催されることから、例年の秋の大会よりも若干遅めの会期になっておりますが、秋たけなわの爽やかな気候の下での大会になることを期待しております。

シンポジウムの企画、一般演題の受付スケジュールなどは、学会ホームページ等で随時お知らせいたします。

たくさんの方の皆々と千葉大学のキャンパスでお目にかかれることを心より楽しみにしております。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

記

会期：2010年10月30日（土）・31日（日）
会場：千葉大学けやき会館（千葉大学西千葉キャンパス，千葉市稲毛区弥生町1-33）

【研究部会レポート】

Wood/Human Relations 研究部会

信田 聡
（東京大学大学院）

2000年12月25日に本研究部会を立ち上げさせていただいてから10年目になります。この間、年4回開催を目標に活動してまいりました。昨春秋で18回の部会を開催できました。平均しますと年2回ペースの活動です。目標達成にはもう少し頑張らなくていけない状況です。自然材料としての木材は建築や家具を中心として多く利用されております。木材と人とのかかわりを研究することの社会的重要性は、例えば国土交通省主導で昨年度まで3年間実施された健康維持増進住宅研究委員会（村上周三委員長）でも木材の重要性が認識されその健康増進効果について検討されたことから伺うことができます。

さて、この欄での研究部会紹介は3回目になると記憶しております。今回は2009年11月20日（金）に森林総合研究所（茨城県つくば市）で開催された第18回講演会—自分を測る—を紹介いたします。今回の研究部会は、本部会と日本木材学会居住性研究会（幹事：仲村匡司（本学会理事）、日本木材加工技術協会木質仕上げ部会（代表：末吉修三（本学会員））の共催で、(独)森林総合研究所 構造利用研究領域木質構造居住環境研究室（恒次祐子，森川岳，宇京斉一郎ほか）の協力を得て開催されました。内容は Wood/Human Relations の科学について、木材科学の分野においても生理応答指標を用いてアプローチする方々が増えてきていますが、木材側のばらつきと人間側の個人差のマッチングはただでさえ大変であるのに、まだまだ不慣れた生理応答指標を用いて実験を進める上で「自分の測り方は合っているのか」「こんなにばらついていいのだろうか」と不安を感じる方も多いため、参加者が「そこんところど

うなの？」を実体験できる場を企画しました。互いの「tips（コツやツボ）」を交換し合う場となりました。Part 1 では、唾液アミラーゼ活性を測ってみると題して、①ラボ実験でのケーススタディ 森川 岳（森林総合研究所），②フィールド実験でのケーススタディ 小林大介（横浜国立大学），③自分を測る：精神負荷および嗅覚刺激を受ける前後での自身の唾液アミラーゼ活性の変化を、全参加者が調べた、などが講演・実演されました。また Part 2 では、自律神経系反応，中枢神経系反応を測ってみると題して、森林総研所有の装置を用いて、同一刺激を与えられた時の複数の被験者の反応を観察するデモンストレーションが行われました。Part 3 はフリートーキングで、①唾液アミラーゼ測定恨み節 中村智彦（東京大学大学院），②高齢者施設は大変です 櫻川智史（静岡県工業技術研究所）の発表があり、多少の飲み物も入る中でしたので、それぞれの発表への質疑応答がより活発となりました。

共催での開催のため、それぞれの分野から均等に参加者を得ました。本研究部会は通例10～15名の参加状況でしたが、今回は30名を超える参加者を得ました。共催の持つ意味を感じた部会でもありました。

本部会の開催案内はメーリングリストを通しても行いますので、今後案内を受けたい方は幹事：小林大介（横浜国大，kobadai@ynu.ac.jp），森川岳（森林総研，tmorik@ffrpi.affrc.go.jp）までメールでその旨お伝えください。



参加者全員チップを啜める
（写真：仲村匡司氏提供）

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

【今後の学会関連行事】

姿勢研究部会第3回研究会

会期：2010年6月26日（土）10:00 - 17:00

場所：金沢大学医学部記念館

（金沢市宝町13-1）

連絡先：姿勢研究部会 事務局

kanapos@med.m.kanazawa-u.ac.jp

※詳細は部会 HP をご覧ください。

<http://kanapos.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

人間－医療福祉施設系評価制御問題研究部会

会期：2010年6月28日（月）14:45 - 17:00

場所：北海道大学工学部 A151 会議室

（札幌市北区北13条西8丁目）

演題：「省エネ技術を中心とした医療施設の設計動
向」 堀 俊博（(株)三菱地所設計）

「地球起源の究極の室内空気汚染物質，自然
放射性物質の特性を巡って」

藤吉亮子（北海道大学）

参加費：1000円

連絡先：横山真太郎（北海道大学）

yokoyama@eng.hokudai.ac.jp

オフィス研究部会 2010年度第2回講演会

会期：2010年7月9日（金）13:30 - 16:30

場所：ピーエス(株)東京本社ショールーム

[http://www.ps-group.co.jp/pscompany/
office/jungle/index.html](http://www.ps-group.co.jp/pscompany/office/jungle/index.html)

演題：「光とヒト - 最適なオフィス照明を考
える」 勝浦哲夫（千葉大学）

「働く場の室内気候・オフィスを若返らせ
る」 平山武久（ピーエス(株)）

連絡先：榎本ヒカル（労働安全衛生総合研究所）

enomoto@h.jniosh.go.jp

第10回国際生理人類学会議

会議長：Alan Bittles 教授

会期：2010年9月9日（木）～ 12日（日）

（9月9日（木）は登録および歓迎会）

場所：Esplanade Hotel Fremantle

（フリーマントル，オーストラリア）

連絡先：原田一（東北工業大学）

h-harada@tohtech.ac.jp

日本生理人類学会第63回大会

会期：2010年10月30日（土）・31日（日）

場所：千葉大学けやき会館

（千葉市稲毛区弥生町1-33）

連絡先：岩永光一（千葉大学）

iwanaga@faculty.chiba-u.jp

生理人類学談話会

会期：第2回 2010年7月24日

第3回 2010年12月11日

第4回 2011年3月5日

場所：東京

連絡先：工藤奨（芝浦工業大学）

kudous@sic.shibaura-it.ac.jp

第5回研究奨励発表会

会期：2010年12月

場所：東京

連絡先：工藤奨（芝浦工業大学）

kudous@sic.shibaura-it.ac.jp

from Editors

次号（7月末発行）の原稿締切は6月30日（水）

▽今号では英文誌編集委員長からの喜ばしいお知らせを掲載できました。国際会議，大会，その他行事の案内や報告も盛り沢山の活発さを感じながら編集を行いました。この活気を PANews の誌面を通して会員の皆さまにお伝えすることで，学会の更なる発展の一助となればと祈念しています。

会報担当理事：岡田 明（大阪市立大学大学院）

福島修一郎（大阪大学大学院）

PANews 編集事務局：

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学大学院生活科学研究科

居住環境学講座 岡田明

e-mail akira.pegasus@nifty.com

〒560-8531 豊中市待兼山町1-3

大阪大学大学院基礎工学研究科

生体計測学講座 福島修一郎

e-mail fukushima@me.es.osaka-u.ac.jp